



Vol 172 「その金額で買えないの？」 基準価額の算出タイミングのフシギ。

5月といえば大型連休。今月は久しぶりの遠出を楽しまれた方も多かったかもしれませんね。さて、連休前後になると多くいただくお問い合わせに「基準価額はいつの相場が適用されるのか」といったものがあります。

確かに日本の金融市場は祝日の間は動きませんが、海外はそうではありません。休みの期間が長くなればなるほど、不安を覚えることがありますよね。

こちらをご理解いただくには、まず基準価額がどのタイミングで算出されているのかを押さえることが必要です。



基準価額は投資信託の「価値」だけど、 そのまま買える「値札」にあらず

そもそも基準価額とは、基本的に1日に1回だけ決まる投資信託の価値のこと。多くの投信の基準価額は1万口当たりの金額で表示されているので、その投信が現時点でどれくらいの価値があるのかを客観的に見ることができる指標でもあります。



$$\text{基準価額} = \frac{\text{純資産総額 (投信の資産)}}{\text{総口数 (全保有者の口数)}}$$

*一般的に10,000を掛けて表示されています。

ですから、投信を売買するときに「この金額で買いたい／売りたい」と考えることが多いと思いますが、実はここが注意しなければならないポイントです。

それはどのような投信であっても、「今見えている基準価額では売買ができない」ということ。投信の購入及び売却の受付は、通常営業日の午後3時で締め切りとなり、適用される基準価額はこのあと計算が始まります。それでは具体的に見ていきましょう。

海外資産はややこしい？ 基準価額の算出タイミング

投信の投資対象は国内資産のもの、海外資産のもの、もしくはその両方にまたがるものがあり、ほとんどの場合どれも基準価額の算出には「市場の終値」が適用されます。

国内資産はそのまま当日の市場の終値を使用できますから理解しやすいですよ。問題は海外資産。市場の取引時間は時差がありますから、同じ「当日」の終値を待っていたら「翌日」になってしまいます。そこで使用するのは基準価額を算出する「前営業日」の市場の終値。為替レートもあわせてまとめると、以下のようになります。

- 国内の資産 → 基準価額を算出する当日の市場の終値
- 海外の資産 → 基準価額を算出する前営業日の各海外市場の終値
- 為替 → 基準価額を算出する当日の午前10時頃の為替レート*

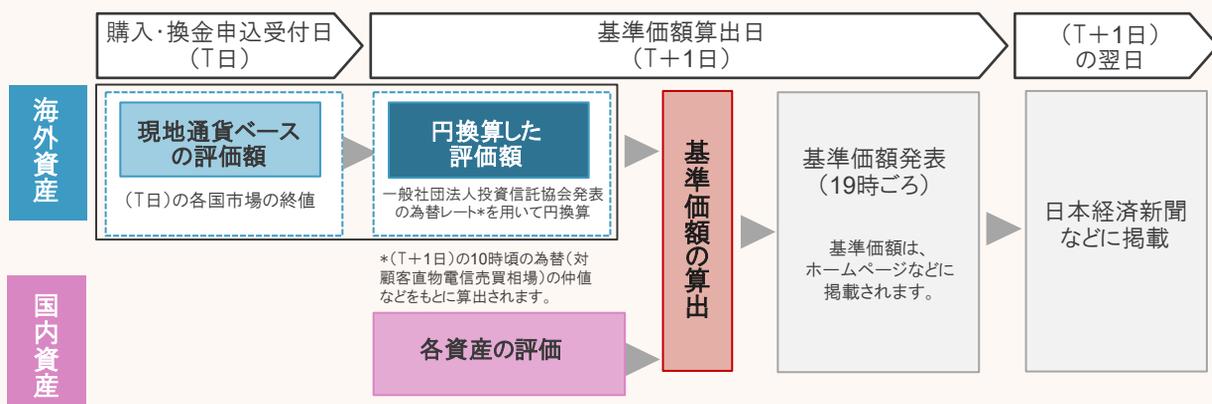
*為替相場が大きく変動した場合は、適用為替レートを変更する場合があります。
*ファンドオブファンズなどでは異なる為替適用ルールのものもあります。

※一般的な公募投信の場合

例えば、日本株式と米国株式に投資する投信の6月1日の基準価額は、6月1日の日本株式の終値と、前営業日である5月31日の米国株式の終値に6月1日の午前10時頃の為替レートで日本円に換算したものを基に算出します。

…あれ？ 前日の終値だと「見えちゃってる」んじゃない？ という疑問をお持ちになった方は鋭いですね！ そのため、海外市場に投資する投信の場合、購入及び売却時の価額は「購入または換金申込受付日の翌営業日の基準価額」となるのです。該当する投信の目論見書にも明記されていますので、ぜひ一度チェックしてみてください。

海外市場にも投資する投信の基準価額算出イメージ



※休業日を挟まない場合のイメージです。

祝日を挟んだ場合の考え方

さて、それでは冒頭のトピックに戻って、今回の大型連休ではどうだったのかあらためて見てみましょう。

2023年5月の大型連休と適用される基準価額のイメージ



5月2日の午後3時までに購入申し込みをした場合に適用される基準価額は、①国内市場のみが対象の場合は当日の基準価額となります。一方、②海外市場も対象とした投信の場合は「翌営業日の基準価額」となるため、連休明けの5月8日の基準価額が適用されるというわけです。

なお、日本が祝日となっている期間も海外の市場はオープンしていますので、5月8日の基準価額の算出に使用される海外市場の終値は「5月5日」のものであります。そして為替レートは5月8日の午前10時頃のものを使用されることもお忘れなく。

最後に

投信は「今この金額で」の売買ができない金融商品。ちょっとやきもきすることもあります。だからこそ短期的な基準価額の上げ下げにとらわれすぎないことも大事です。

中長期的な資産成長を期待してゆったり長く付き合える商品を選びたいですね。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント